



ロシアトヨタ戦記

西谷公明著(中央公論新社・2420円)

トヨタ自動車のロシア進出は日露関係史に残る大事業だった。日本の自動車メーカーでは初めてのロシア現地工場をサンクトペテルブルク郊外に建設し、2007年12月に生産を開始した。ロシアが隣国に侵攻するとは想像もできなかった時代だ。

当時、銀行系エコノミストからトヨタの現地法人社長に転身し、好調なロシア経済で業績を急拡大した「天国」と、リーマン・ショック後の大赤字という「地獄」を味わった著者の「ジェットコースターのような」5年余の奮闘記だ。

グレフ経済発展貿易相(当時)と

の初交渉、税務当局など官僚機構との攻防、モスクワ郊外の新社屋建設を巡る裏話など、現場にいた当事者ならではのエピソードが満載だ。冷戦終結後の歴史を振り返りつつ、当時のロシア社会やトヨタのビジネス戦略を理解するガイドランスにもなっている。

本書のもう一つの特徴は、ロシア進出を推進した奥田碩元ひでもと会長(当時は相談役)への著者の傾倒ぶりが随所ににじんでいることだ。2泊3日を共にしたシベリア鉄道の旅にも1章を割いた。「奥田イズム」を知る手がかりとしても面白い。(俊)